

# 水素エネルギー

## Weekly Intelligence Report

2026-05-02 | 20件 | 9カ国

troy-technical.jp

今週のキーワード

## 水素経済加速

地政学リスクと技術革新が市場を牽引

20

件  
記事数

9

カ国  
対象国

100万

m<sup>3</sup>  
中国貯蔵

22-28

%  
接着剤CAGR

### 今週の全20記事 — 5軸評価で読むべき記事を選ぶ

各列の見方 — 技術新規性：ブレイクスルー度合い 実用化距離：製品として使える近さ 市場インパクト：業界全体への影響規模  
データ信頼性：定量データ・査読の有無 日本関連度：日本の企業・サプライチェーンとの直接的関連性

#	記事タイトル	種別	技術 新規性	実用化 距離	市場 インパクト	データ 信頼性	日本 関連度	一行サマリ
#01	エネルギー危機が水素推進	市場概観	●○○○ ○	●●●○ ○	●●●● ●	●●○○ ○	●●●● ○	世界的なエネルギー危機がグリーン水素への投資と実用化を加速させ、中国も戦略を強化。
#02	米会計検査院の水素分析	政策/課題 分析	●○○○ ○	●●○○ ○	●●●● ○	●●●○ ○	●●●○ ○	米国会計検査院が水素の可能性と貯蔵・輸送コストの課題を指摘、政策的対応の必要性を強調。
#03	香港の水素EV充電稼働	応用事例	●●○○ ○	●●●● ●	●●○○ ○	●●○○ ○	●●○○ ○	香港で初の商業ビル向け水素燃料EV充電システムが稼働、既存電力システムの制約を克服。
#04	Plug Power決算発表	企業戦略	●○○○ ○	●●●● ●	●●○○ ○	●●○○ ○	●●○○ ○	Plug Powerが2026年第1四半期決算を発表予定、水素エコシステム構築を推進。
#05	トヨタFCユニット認証	製品紹介	●●○○ ○	●●●● ○	●●○○ ○	●●○○ ○	●●●● ●	トヨタ水素ソリューションズが商用燃料電池ユニットの主要認証を取得、北米市場展開を加速。
#06	注目水素関連銘柄	市場概観	●○○○ ○	●○○○ ○	●●○○ ○	●●○○ ○	●●○○ ○	Plug Powerなど水素関連銘柄が注目されるが、高額投資や技術進化のリスクも伴う。
#07	ポッシュとフロイデン提携	企業戦略	●●○○ ○	●●○○ ○	●●●● ○	●●○○ ○	●●○○ ○	ポッシュとフロイデンベルグが燃料電池部品の大規模生産で提携、商用車向け需要に対応。
#08	ドイツ水素インフラ強化	政策/イン フラ	●○○○ ○	●●○○ ○	●●●● ○	●●○○ ○	●●○○ ○	ドイツが新たなパイプラインプロジェクトで国内水素インフラを強化、産業脱炭素化を推進。
#09	中国、塩水空洞貯蔵進展	技術新規 性	●●●● ○	●●○○ ○	●●●● ●	●●●● ○	●●●● ○	中国科学院が100万m <sup>3</sup> 級塩水空洞水素貯蔵施設を開発、大規模貯蔵技術に画期的な進展。
#10	マレーシア、水素バス導入	応用事例	●●○○ ○	●●●● ○	●●○○ ○	●●○○ ○	●●○○ ○	マレーシア・スランゴール州が公共バスへの水素エネルギー導入計画を発表、今年中の実施を目指す。
#11	水素製造用整流器市場	市場概観	●○○○ ○	●○○○ ○	●●○○ ○	●●○○ ○	●●○○ ○	水素製造用整流器の世界市場レポート概要。電解技術の進化が市場成長を牽引。
#12	U Power、タイで合併	企業戦略	●●○○ ○	●●●● ○	●●○○ ○	●●○○ ○	●●○○ ○	U Powerがタイのデータセンター向け水素エネルギー合併会社を設立、クリーン電力供給を推進。
#13	高砂熱学、MCH実証参加	技術実証	●●○○ ○	●●○○ ○	●●●● ○	●●○○ ○	●●●● ●	高砂熱学工業が液化MCHを活用したグリーン水素供給網構築実証事業に参加、都市部での利用促進へ。
#14	グリーン水素が未来を拓く	解説記事	●○○○ ○	●●○○ ○	●●●● ●	●●○○ ○	●●●● ○	グリーン水素が脱炭素社会とエネルギー自給の切り札として注目、コスト低下で実用化が現実味に。
#15	再エネ時代の電力貯蔵	解説記事	●○○○ ○	●●○○ ○	●●●● ○	●●○○ ○	●●●● ○	PwCレポートが変動性再エネ拡大時代の電力貯蔵システム（ESS）の重要性を強調、Power to H2に注目。
#16	三菱商事CNロードマップ	企業戦略	●●○○ ○	●●○○ ○	●●●● ○	●●○○ ○	●●●● ●	三菱商事が「カーボンニュートラル社会へのロードマップ2.0」を発表、次世代エネルギー投資と実証を加速。

#	記事タイトル	種別	技術 新規性	実用化 距離	市場 インパクト	データ 信頼性	日本 関連度	一行サマリ
#17	サウジ液体水素市場	市場概観	●○○○ ○	●○○○ ○	●●●● ○	●●●○ ○	●●●● ○	サウジアラビアの化学液体水素市場レポート概要。国家認証制度とLH2標準策定を推進。
#18	Plug Power株が急騰	市場動向	●○○○ ○	●●●● ●	●●○○ ○	●●○○ ○	●●○○ ○	Plug Power株がアナリスト評価と水素セクターの勢いで急騰、決算発表に注目集まる。
#19	川重、カナダと供給網探る	企業戦略	●●●○ ○	●●●○ ○	●●●● ○	●●●○ ○	●●●● ●	川崎重工業がカナダと液化水素供給網構築の可能性を探るMOU締結、国際的な水素輸送を強化。
#20	メキシコ水素タンク接着剤	市場概観	●○○○ ○	●○○○ ○	●●●○ ○	●●●○ ○	●●●○ ○	メキシコの水素タンク複合材ラッパー用接着剤市場レポート概要。FCEVとインフラ製造が牽引。

●●●●○ 高 ●●●○ 中高 ●●○○ 中 ●○○○ 低 | 背景黄色=注目記事

## 今週、判断に影響しうる3つの問い

### ① 中国の大規模水素貯蔵技術は、日本のエネルギー安全保障戦略にどのような影響を与えるか？

中国が100万m<sup>3</sup>級の塩水空洞水素貯蔵施設を開発したことは、大規模かつ低コストな水素貯蔵の実現可能性を示唆します（#09）。これは、再生可能エネルギーの変動性に対応し、安定的な水素供給を可能にする上で極めて重要です。日本が目指す水素サプライチェーン構築において、この技術は脅威となるか、あるいは新たな連携の機会となるか、その戦略的意義を再評価する必要があります。

### ② 日本企業は、海外での水素インフラ整備競争にどう立ち向かうべきか？

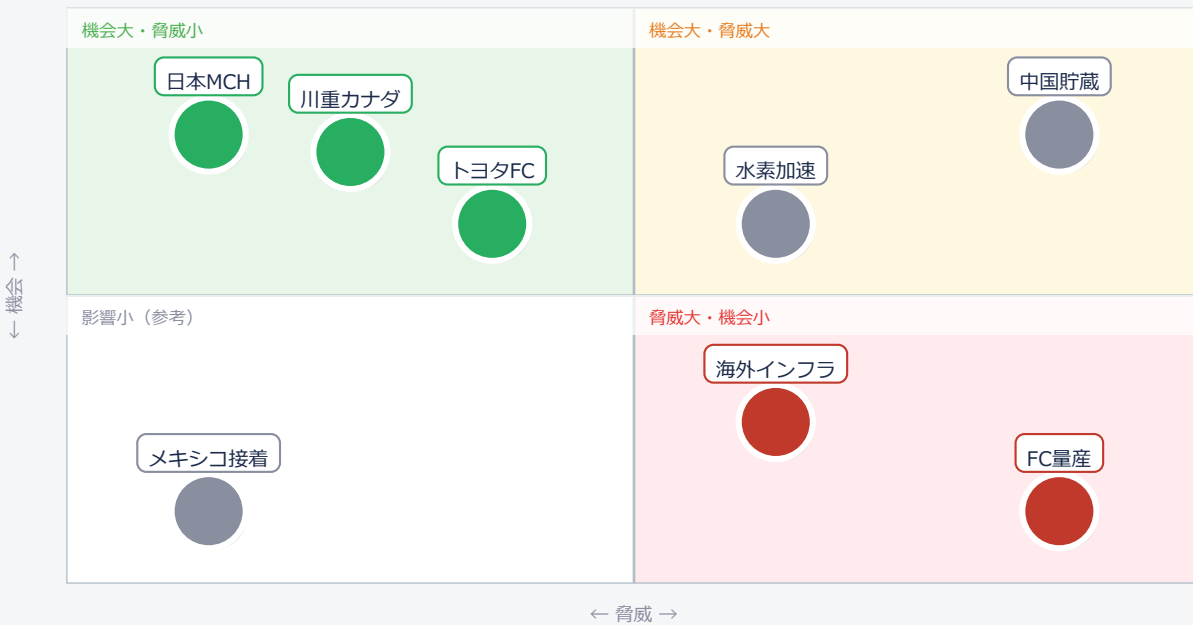
ドイツのパイプライン網強化（#08）やサウジアラビアの液体水素標準策定（#17）など、海外では水素インフラ整備が加速しています。一方、日本企業はMCH（#13）や液化水素輸送（#19）で強みを持つものの、グローバルなインフラ標準化や大規模投資競争で後れを取るリスクがあります。自社の強みを活かしつつ、国際的な連携をどう深め、競争力を維持・向上させるか、具体的な戦略が求められます。

### ③ 燃料電池の量産化と多様な応用拡大は、自社の材料・部品開発ロードマップをどう変えるか？

トヨタの燃料電池ユニット認証取得（#05）やボッシュとフロイデンベルグの燃料電池部品量産提携（#07）は、燃料電池市場の本格的な拡大を示唆します。また、EV充電（#03）やデータセンター（#12）、公共バス（#10）など応用分野も多様化。これに伴い、燃料電池スタックや水素貯蔵タンク（#20）向けの高性能材料・部品への需要が急増するでしょう。自社の材料・部品が、この変化する市場ニーズに適合しているか、開発ロードマップの見直しが必要です。

## 日本企業にとっての「機会 vs 脅威」

日本企業にとっての「機会 vs 脅威」マトリクス



項目	象限	↑ 機会	↓ 脅威
● 中国貯蔵	注意	大規模貯蔵技術の進展	中国の水素覇権加速
● 日本MCH	機会大	MCHサプライチェーン確立	—
● 川重カナダ	機会大	液化水素供給網構築	—
● トヨタFC	機会大	FCユニット市場拡大	—

---

● 水素加速	注意	水素市場の急拡大	競争激化と技術標準化
● FC量産	脅威大	—	欧州勢の量産先行
● 海外インフラ	脅威大	—	国際競争力低下
● メキシコ接着	参考	新興市場への参入	輸入依存度が高い

## 深掘り ① — 中国、大規模水素貯蔵技術で先行

#09 | 2026/04/30 | AFPBB News | 技術新規性●●●●○ 実用化距離●●●●○ 市場インパクト●●●●●  
データ信頼性●●●●○ 日本関連度●●●●○

中国科学院が100万立方メートル級の塩水空洞水素貯蔵施設を開発し、大規模かつ安全な水素貯蔵技術で画期的なブレイクスルーを達成しました。これは、再生可能エネルギー由来の水素（Power-to-Gas）の安定供給に不可欠な技術であり、地質学的安定性とコスト効率の高さが特徴です。中国はこれにより、強固な水素エネルギーインフラ構築を加速させ、脱炭素経済への移行を強力に推進する構えです。

この技術は、間欠的な再生可能エネルギーの余剰電力を水素として貯蔵し、需要に応じて供給する役割を担います。大規模貯蔵能力の確保は、水素の安定供給を可能にし、産業、交通、電力部門など広範な分野での水素利用を促進します。中国のこの動きは、世界の水素貯蔵技術開発に大きな影響を与え、グローバルなエネルギー転換を加速させる触媒となる可能性があります。

### ▶ 技術者の視点

中国の大規模塩水空洞貯蔵技術は、その容量とコスト効率において非常に魅力的です。ただし、地質条件が限定されるため、全ての地域で適用可能とは限りません。提示された「100万立方メートル級」という数値は、商業規模での貯蔵能力として非常に大きく、再生可能エネルギーの大量導入には不可欠なレベルです。日本企業にとって、この技術は【脅威】であると同時に、【機会】でもあります。中国が先行する大規模貯蔵技術を注視し、日本国内の地質条件に適した貯蔵技術（例えば、液化水素、MCH、アンモニアなど）の開発を加速させる必要があります。特に、日本の地質は塩水空洞に適さない場合が多いため、代替技術への投資が急務です。R&D部門は、中国の技術詳細を分析し、自社の貯蔵技術ロードマップに反映させるべきです。

## 深掘り ② — 高砂熱学工業、MCH水素供給網を実証

#13 | 2026/04/30 | 日刊建設工業新聞 | 技術新規性●●●●○ 実用化距離●●●●○ 市場インパクト●●●●○  
データ信頼性●●●●○ 日本関連度●●●●●

高砂熱学工業は、液体のメチルシクロヘキサン（MCH）を用いたグリーン水素供給網構築の実証事業に参画します。茨城県で生成した水素をMCHに変換し、東京のレストランで利用するまでの一連のプロセスを実証。MCHは常温常圧で気体水素の約530倍の体積効率で運搬可能であり、都市部での安全かつ効率的な水素利用を促進する日本の重要な取り組みです。

このプロジェクトは、東京都が採択した「都市部における多用途水素利用技術の開発・実証プロジェクト」の一環であり、水素運搬の課題解決に貢献します。既存の石油流通インフラの一部活用も視野に入り、新たなインフラ投資を抑えつつ水素供給網を効率的に構築する鍵となります。日本の水素戦略における水素キャリアの重要性を示す具体的な一歩です。

### ▶ 技術者の視点

MCHは、水素の貯蔵・輸送における物理的課題を解決する有望な水素キャリアの一つです。常温常圧での取り扱いが可能である点は、液化水素のような極低温技術が不要なため、インフラコスト削減に大きく貢献します。ただし、MCHへの水素化・脱水素化プロセスにはエネルギーが必要であり、その効率と触媒の耐久性が実用化の鍵となります。今回の実証は、都市部での具体的な利用事例を示すもので、日本企業にとって【機会】は非常に大きいと言えます。特に、化学メーカーやプラントエンジニアリング企業は、MCH関連技術や設備の開発・提供で優位に立てるでしょう。調達部門は、MCHのサプライチェーン構築に向けたパートナーシップを検討し、R&D部門は、より高効率で低コストなMCH変換技術の開発を加速すべきです。

## 深掘り ③ — 川崎重工、カナダと液化水素供給網探る

#19 | 2026/04/27 | 海事プレス | 技術新規性●●●○○ 実用化距離●●●○○ 市場インパクト●●●●○ データ信頼性●●●○○  
日本関連度●●●●●

川崎重工業は、カナダのアルバータ州エドモントン地域の水素ハブ（ERHH）などと覚書（MOU）を締結し、液化水素供給網構築の実現可能性を共同で探ります。これは、グローバルな水素経済における日本のプレゼンスを拡大し、国際的な水素輸送ネットワークの発展に貢献する戦略的な動きです。

川崎重工業は液化水素運搬船「すいそ ふろんていあ」の開発・運航実績を持ち、液化水素技術で世界をリードしています。カナダは豊富な天然ガス資源や再生可能エネルギー源を有しており、液化水素の生産・輸出拠点としての潜在能力が高いです。この連携により、カナダからアジア市場などへの液化水素の安定供給が可能となれば、グローバルなエネルギー転換を加速させるでしょう。

### ▶ 技術者の視点

川崎重工業のカナダとの連携は、液化水素サプライチェーン構築における日本の技術的優位性を活かす重要な動きです。液化水素は体積効率が高い反面、極低温での貯蔵・輸送が必要であり、高度な技術と設備が求められます。川崎重工業の「すいそ ふろんていあ」の実績は、この分野での日本の【機会】を明確に示しています。ただし、液化プロセスや貯蔵設備のコスト削減、および国際的な安全基準の統一が今後の課題です。日本は液化水素技術で先行していますが、他国も追随しており、技術革新の継続が【脅威】への対抗策となります。R&D部門は、液化効率の向上や新素材開発、経営企画部門は、国際的なパートナーシップをさらに拡大し、グローバルな水素ハブ戦略を具体化すべきです。

## その他の注目記事

三菱商事、「カーボンニュートラル社会へのロードマップ2.0」を発表（三菱商事）  
技術新規性●●○○○ 実用化距離●●●○○ 市場インパクト●●●●○

三菱商事が次世代エネルギー投資と水素還元製鉄、産業用グリーン水素利用の実証を加速。日本の商社がサプライチェーン全体で脱炭素化を推進する動きは注目に値する。

香港で初の商業ビル向け水素燃料EV充電システムが稼働、グリーン交通の新たな応用事例（Markets Insider）  
技術新規性●●●○○ 実用化距離●●●●● 市場インパクト●●●○○

既存電力システムの制約を水素燃料で克服する都市型EV充電システムは、分散型電源としての水素の可能性を示す。日本の都市部インフラへの応用も検討の価値あり。

U Power、タイのデータセンター向け水素エネルギー合弁会社を設立（Investing.com）  
技術新規性●●●○○ 実用化距離●●●●○ 市場インパクト●●●○○

エネルギー集約型データセンターの脱炭素化は喫緊の課題。水素燃料電池による安定供給と環境負荷低減は、日本のデータセンター事業者や関連部品メーカーにとって大きな機会となる。

ドイツ、新たなパイプラインプロジェクトで水素インフラを強化（Clean Energy Wire）  
技術新規性●●○○○ 実用化距離●●●○○ 市場インパクト●●●●○

ドイツの水素パイプライン網拡張は、産業脱炭素化とエネルギー安全保障強化を目的とする。日本の水素インフラ整備戦略において、海外の先事例から学ぶべき点は多い。

マレーシア・スランゴール州、公共バスへの水素エネルギー導入計画を発表（時事ドットコム）  
技術新規性●●○○○ 実用化距離●●●●○ 市場インパクト●●●○○

東南アジアでの公共交通機関への水素導入は、地域全体の脱炭素化を加速させるモデルケースとなる。日本の燃料電池メーカーや水素供給インフラ企業にとって、新たな市場機会となる可能性がある。

## 今週のアクション提案

記事評価マトリクスと機会/脅威分析を踏まえたアクション提案です。

### ■ 即時（今週中）

- 【R&D;】中国の塩水空洞貯蔵技術（#09）に関する公開情報を収集し、自社の水素貯蔵技術ロードマップへの影響を評価せよ。
- 【調達】液化水素キャリア（MCH等）のサプライヤー動向（#13）を調査し、将来的な調達戦略に組み込む可能性を検討せよ。

### ■ 短期（1ヶ月）

- 【経営企画】グローバルな水素サプライチェーン構築における日本の立ち位置（#19）を再評価し、カナダなど資源国との連携強化策を検討せよ。
- 【半導体PKG/EV設計】燃料電池ユニットの認証取得（#05）や量産化動向（#07）を受け、自社製品への燃料電池技術導入の実現可能性とコストメリットを再計算せよ。

### ■ 中長期（四半期～）

- 【R&D;】大規模水素貯蔵技術（#09）や水素キャリア技術（#13）に関する共同研究パートナーを国内外で探索し、技術ロードマップに反映させよ。
- 【経営企画】海外の水素インフラ整備動向（#08, #17）を継続的にモニタリングし、日本の国際競争力維持のための戦略的投資機会を特定せよ。

# 水素エネルギー 採用記事全文集

出力日: 2026-05-02

採用記事数: 20 件

## 収録記事一覧

1. 01. 世界的なエネルギー危機がグリーン水素の推進を加速
2. 02. 水素エネルギーの未来と課題：米国会計検査院の分析
3. 03. 香港で初の商業ビル向け水素燃料EV充電システムが稼働、グリーン交通の新たな応用事例
4. 04. Plug Power、2026年第1四半期決算を5月11日に発表
5. 05. トヨタ水素ソリューションズ、商業用燃料電池ユニットの主要認証を取得
6. 06. 注目すべき水素関連銘柄：2026年4月30日
7. 07. ボッシュとフロイデンベルグ、燃料電池の大規模生産で提携
8. 08. ドイツ、新たなパイプラインプロジェクトで水素インフラを強化
9. 09. 中国、塩水空洞活用で大規模水素貯蔵技術に画期的進展
10. 10. マレーシア・スランゴール州、公共バスへの水素エネルギー導入計画を発表
11. 11. 水素製造用整流器の世界市場レポート：2026年～2032年予測
12. 12. U Power、タイのデータセンター向け水素エネルギー合併会社を設立
13. 13. 高砂熱学工業、液化MCHを活用したグリーン水素供給網構築実証事業に参加
14. 14. グリーン水素：脱炭素社会とエネルギー自給の未来を拓く切り札
15. 15. 変動性再生可能エネルギー拡大時代の電力貯蔵システム（ESS）：PwCレポート
16. 16. 三菱商事、「カーボンニュートラル社会へのロードマップ2.0」を発表
17. 17. サウジアラビアの化学液体水素市場レポート：価格、規模、予測、企業動向
18. 18. Plug Power株が9.9%急騰、強気のアナリスト評価と水素セクターの勢いが追い風
19. 19. 川崎重工業、カナダとの連携で液化水素供給網構築の可能性を探る
20. 20. メキシコにおける水素タンク複合材ラッパー用接着剤市場レポート：価格、規模、予測、企業動向

# 世界的なエネルギー危機がグリーン水素の推進を加速

公開日 2026年04月27日 The Tide アメリカ



## 概要

世界的なエネルギー危機、特にホルムズ海峡の閉鎖による原油・ガス価格の高騰が、グリーン水素への関心と投資を急速に高めています。これにより、各国はエネルギーの多様化を迫られ、グリーン水素を国家のエネルギー自給にとって戦略的な手段と見なすようになりました。世界最大の水素生産国である中国も、エネルギー安全保障強化のため、グリーン水素生産計画を加速しています。これは、グリーン水素が研究段階から急速な実用化へと移行していることを示唆しています。

### 背景：世界情勢とエネルギーシフト

ホルムズ海峡の閉鎖に端を発する世界的なエネルギー危機は、原油価格や天然ガス価格の歴史的な高騰を引き起こし、各国に新たなエネルギー戦略の策定を強く促しています。このような地政学的リスクの高まりは、再生可能エネルギー由来のグリーン水素に対する関心と投資を劇的に加速させる主要因となりました。従来の化石燃料に依存しないエネルギー源の確立は、各国のエネルギー安全保障を確保する上で不可欠な要素として認識されています。

### 主要な進展：中国の戦略的動向と市場の変革

特に中国は、世界最大の水素生産国としての地位を背景に、エネルギー安全保障強化の一環としてグリーン水素生産計画の加速化を明確に打ち出しています。同国はグリーン水素を「国家のエネルギー自給を可能にする戦略的レバー」と位置づけ、その普及と技術開発に大規模なリソースを投入しています。このような動きは、グリーン水素が従来の研究開発フェーズから、大規模な実用化とインフラ整備へと急速に移行している現状を象徴しています。市場アナリストは、この動きが世界の水素エネルギー産業に構造的な変革をもたらすと予測しています。

### 影響と展望：コスト課題と技術革新の必要性

専門家は、グリーン水素の生産コスト自体は将来的に低下すると見込んでいますが、同時に、その貯蔵と流通にかかる費用が依然として高い障壁となり得ると指摘しています。水素はエネルギー密度が高いものの、その物理的特性から貯蔵・輸送には特殊な技術と設備が必要であり、これが最終的な競争力に影響を与えます。この課題を克服するためには、革新的な貯蔵技術（例えば、液体水素、アンモニア、MCHなどの水素キャリア）や、既存インフラを再利用する効率的な流通システムの開発が不可欠です。今後、各国政府と産業界は、これらの技術的・経済的課題を解決するための連携を強化し、グリーン水素が多様な産業分野で真に競争力を持つエネルギー源となるよう取り組むことが期待されています。

収集日: 2026年05月02日 | 自動記事収集・翻訳システム (Gemini API使用)

# 水素エネルギーの未来と課題：米国会計検査院の分析

公開日 2026年04月30日 GAO (米国会計検査院) アメリカ



## 概要

米国会計検査院（GAO）は、水素が将来のエネルギー源として持つ可能性と、その普及を阻む課題について報告書を発表しました。水素は、化石燃料、太陽光、原子力など多様な方法で生産可能であり、ほぼすべてのエネルギー需要分野に応用できる汎用性の高い燃料です。しかし、現在の米国における水素消費の90%は、精製や肥料生産などの産業用途に限定されており、広範なエネルギーセクターでの採用には至っていません。報告書は、水素の貯蔵・輸送コストの高さが主要な課題であることを指摘し、今後の政策的な対応の必要性を強調しています。

## 詳細

### 背景：水素エネルギーの潜在力と現状

米国会計検査院（GAO）が発表した報告書は、水素が将来のエネルギーミックスにおいて果たす可能性について、その多面的な側面を詳細に分析しています。水素は、その生成方法の多様性（化石燃料、再生可能エネルギー、原子力など）と、電力、交通、産業といったほぼあらゆるエネルギー需要分野への応用可能性から、次世代のクリーンエネルギーキャリアとして大きな期待が寄せられています。しかし、現在のところ米国では、生産される水素の約90%が石油精製やアンモニア製造（肥料生産）といった特定の産業プロセスで消費されており、電力供給や一般輸送といった広範なエネルギーセクターでの普及は限定的です。

### 主要な課題：貯蔵と輸送の経済性

GAOの報告書は、水素の広範な採用を阻む主要な課題として、そのコスト効率の高い貯蔵と輸送の難しさを挙げています。水素は非常に軽いガスであり、体積あたりのエネルギー密度が低いという特性を持つため、大量に貯蔵したり長距離輸送したりするには、高圧ガス、液体水素、あるいは水素キャリア（アンモニアや有機ヒドライドなど）への変換といった特殊な技術が必要です。これらの技術は現状では化石燃料の貯蔵・輸送と比較してコストが高く、これが水素の競争力に大きな影響を与えます。特に、既存の天然ガスパイプラインを水素輸送に転用する際の適合性や、新たな専用パイプラインの建設費用も課題として挙げられています。

### 政策的提言と将来展望：研究開発と戦略的投資

報告書では、水素エネルギーの潜在能力を最大限に引き出すための政策オプションとして、以下の提言がなされています。まず、より効率的で経済的な貯蔵および輸送技術に関する研究開発への公的支援の強化です。これにより、技術的ブレークスルーが促進され、コスト削減に繋がることが期待されます。次に、水素の活用が特に有効であると考えられる分野、例えば、電力システムの安定化（再生可能エネルギーの出力変動吸収）、重工業の脱炭素化、長距離輸送など、高潜在力アプリケーションへの戦略的投資を優先することです。これらの施策を通じて、水素はエネルギー転換の中核を担うクリーンな燃料としての地位を確立し、持続可能な社会の実現に貢献できる可能性を秘めていると結論付けられています。

収集日: 2026年05月02日 | 自動記事収集・翻訳システム (Gemini API使用)

# 香港で初の商業ビル向け水素燃料EV充電システムが稼働、グリーン交通の新たな応用事例

公開日 2026年05月01日 Markets Insider アメリカ



## 概要

香港中華ガス（Towngas）は、香港で初となる商業ビル向けの水素燃料電気自動車（EV）充電システムを導入しました。この革新的なシステムは、既存の商業ビルが抱える電力システムの制約を克服し、大規模な電気設備改修を必要とせずにEV充電インフラを拡充することを可能にします。システムは、初期段階で地域産の水素を使用し、将来的には埋立地ガス由来のグリーン水素を統合することで、ゼロカーボン電力供給を目指しています。この取り組みは、香港のグリーン交通の推進と、2027年までに水素技術の商業化および認証の国際拠点となる目標に貢献するものです。

### 背景：既存インフラの課題と新たな解決策

香港の商業ビルにおいて、電気自動車（EV）充電設備の導入は、多くの課題に直面していました。特に老朽化した商業ビルでは、既存の電力系統がEV充電に必要な負荷容量に対応できず、大規模かつ高額な電気設備のアップグレードが不可欠でした。この状況が、都市におけるEV普及の大きな障壁となっていました。こうした背景の中、香港中華ガス（Towngas）は、この課題を解決するための革新的なアプローチとして、香港で初めてとなる水素燃料EV充電システムを商業ビル向けに導入しました。

### 主要な技術と導入効果：柔軟な電力供給

今回導入されたシステムは、柔軟性の高い水素発電システムを活用することで、既存の電力インフラに大きな改修を加えることなくEV充電能力を大幅に向上させます。具体的には、ボトル入り水素を供給源として用いることで、需要に応じて電力生成が可能となり、電力系統のピーク負荷を回避しながら安定した充電サービスを提供します。このシステムは、EV充電のアクセス性を大幅に改善するだけでなく、既存ビルの利用者に新たな環境価値を提供します。さらに、このプロジェクトは、初期段階では地域で生産された水素を利用しますが、将来的には埋立地ガスから生成されるグリーン水素を供給源として統合し、完全にゼロカーボンの電力供給を実現する計画です。

### 影響と展望：グリーン交通の加速と国際ハブ化

この画期的な水素燃料EV充電システムの導入は、香港におけるグリーン交通の多様な応用を加速させる重要な一歩となります。既存インフラの制約を技術革新で乗り越えることで、EVの普及を促進し、都市の空気質改善や炭素排出量削減に貢献します。また、Towngasの取り組みは、香港政府が2027年までに水素技術の商業化および認証の国際拠点となるという野心的な目標とも深く連携しています。このプロジェクトは、水素エネルギーが分散型電源として、特に都市部の複雑な電力需要に対応する有効なソリューションとなり得ることを実証し、将来の持続可能な都市開発における水素の役割をさらに拡大させるものと期待されています。

収集日: 2026年05月02日 | 自動記事収集・翻訳システム (Gemini API使用)

# Plug Power、2026年第1四半期決算を5月11日に発表

公開日 2026年04月28日 Plug Power Inc. アメリカ



## 概要

包括的な水素ソリューションを提供するPlug Power Inc.は、2026年第1四半期の決算を5月11日に発表すると告知しました。同社は、水素の生産、貯蔵、配送、発電を含む統合されたエコシステムを構築し、グローバルな水素経済の実現を推進しています。

Plug Powerは、電解槽、液体水素、燃料電池システム、および燃料供給インフラを多様な産業用途に提供しています。同社の電解槽はすでに5大陸に展開されており、大規模な水素生産を主導しています。

## 詳細

### 背景：水素経済のリーダーシップ

Plug Power Inc.は、水素エネルギー分野におけるリーディングカンパニーとして、水素の生産から利用に至るまでの一貫したソリューションを提供しています。同社は、電解槽、液体水素、燃料電池システム、そして関連する燃料供給インフラを開発・展開することで、グローバルな水素経済の構築に貢献しています。産業用途のハンドリング機器から定置型発電システムまで、幅広い分野で水素技術の導入を進めており、エネルギー転換期における重要な役割を担っています。

### 主要な事業進捗と財務発表

Plug Powerは、2026年5月11日に2026年第1四半期の財務結果を発表すると告知しました。この発表は、投資家や市場関係者にとって、同社の事業戦略と財務状況を評価する上で重要な機会となります。同社はこれまでに74,000台以上の燃料電池システムと285箇所の燃料供給ステーションを導入しており、水素インフラの普及に大きく貢献しています。また、電解槽技術は5大陸にわたって展開されており、大規模な水素生産能力の確立を進めています。特に、米国ではジョージア、テネシー、ルイジアナに水素製造工場を建設・稼働させ、総生産能力を日量40トンにまで拡大しています。

### 影響と展望：持続可能な成長と脱炭素化

Plug Powerの継続的なインフラ拡張と技術開発は、世界的なエネルギー独立と脱炭素化目標達成に向けた重要な一歩となります。同社が提供する統合型水素エコシステムは、化石燃料への依存を減らし、クリーンなエネルギー源への移行を加速させることが期待されます。今回の決算発表は、同社の成長戦略、特に収益性向上とキャッシュバーンの抑制に関する市場の期待に応える上で注目されます。長期的に見て、Plug Powerは水素エネルギーが多様な産業セクターで採用されるための基盤を築き、持続可能な社会の実現に貢献していくものと予測されます。

元記事: <https://www.ir.plugpower.com/press-releases/news-details/2026/Plug-To-Announce-2026-First-Quarter-Results-on-May-11-2026/default.aspx>

# トヨタ水素ソリューションズ、商業用燃料電池ユニットの主要認証を取得

公開日 2026年04月29日 トヨタ水素ソリューションズ (Power Engineering経由) アメリカ



## 概要

トヨタ水素ソリューションズは、その定置型燃料電池がANSI/CSA FC 1およびANSI/CSA FC 6認証を取得したことを発表しました。これらの認証は、北米市場における商業展開を拡大するための重要な節目となります。水素燃料電池は、従来の燃焼式発電機と比較して環境負荷が低い代替手段であり、電力網の負荷軽減や病院などの重要インフラの電力供給強化に貢献できます。トヨタは、数十年にわたる燃料電池開発の経験を活かし、定置型電源、商業用トラック、港湾設備など、多様な分野での燃料電池応用を拡大しています。

### 背景：燃料電池技術の標準化と市場拡大

燃料電池技術は、クリーンな電力源として、多様な産業分野での応用が期待されています。特に定置型電源としての燃料電池は、電力網の安定化や非常用電源としての利用価値が高く、その普及には国際的な安全基準および性能基準への適合が不可欠です。このような背景の中、トヨタ水素ソリューションズは、同社の定置型燃料電池ユニットがANSI/CSA FC 1およびANSI/CSA FC 6認証を取得したことを発表しました。これらの認証は、北米市場での商業展開を大きく加速させる上で重要なマイルストーンであり、製品の安全性と信頼性を保証するものです。

### 主要な技術と認証の意義：環境負荷低減と多様な応用

トヨタの水素燃料電池は、水素と酸素の化学反応によって発電し、排出されるのは水蒸気のみという高い環境性能を持っています。これにより、従来のディーゼル発電機などと比較して、温室効果ガス排出量の削減に大きく貢献します。また、燃料電池システムは、電力網に負荷をかけずに電力を供給できるため、再生可能エネルギーの導入拡大に伴う系統安定化の課題にも対応可能です。今回の認証取得により、病院やデータセンターといった重要インフラ、商業施設、産業用アプリケーションなど、多様な分野での定置型燃料電池の導入障壁が低減されます。トヨタは、長年にわたる燃料電池車の開発で培った豊富な経験と技術を活かし、定置型電源だけでなく、商用トラックや港湾機器など、燃料電池の応用範囲を積極的に拡大しています。

### 影響と展望：持続可能な社会への貢献

この認証取得は、水素燃料電池技術の商用化を加速させ、持続可能なエネルギーソリューションの普及に大きく貢献するものです。環境規制の強化や企業のESG（環境・社会・ガバナンス）への意識の高まりを背景に、排出ガスゼロのクリーンな発電技術への需要は今後も増加すると予測されます。トヨタ水素ソリューションズの取り組みは、水素経済の実現に向けた重要なステップであり、特にオフグリッド電源や非常用電源としての燃料電池の導入が拡大することで、より強靱で環境に配慮した社会インフラの構築に貢献すると期待されます。この技術は、従来の発電機に比べて稼働制限が少ない場合が多く、運用面でのメリットも大きいです。

収集日: 2026年05月02日 | 自動記事収集・翻訳システム (Gemini API使用)

# 注目すべき水素関連銘柄：2026年4月30日

公開日 2026年04月30日 MarketBeat アメリカ



## 概要

MarketBeatは、Plug Power、NuScale Power、CF Industriesを含む、注目すべき複数の水素関連銘柄を特集しました。水素関連銘柄とは、グリーン水素やブルー水素の生産、電解槽、燃料電池、貯蔵、流通インフラなど、水素経済の多様な側面に携わる上場企業を指します。水素関連株への投資は、低炭素エネルギー分野の成長に乗る機会を提供しますが、高額な設備投資、進化する技術、規制の変更、市場の変動といったリスクも伴います。Plug Powerは、マテリアルハンドリング用のGenDriveや定置型電源用のGenSureなど、水素燃料電池ソリューションを開発しています。

### 背景：水素経済の成長と投資機会

脱炭素化社会への移行が加速する中、水素エネルギーは重要な役割を担うと期待されています。これに伴い、水素経済に関連する企業の株式、いわゆる「水素関連銘柄」への投資家の関心が高まっています。MarketBeatは、2026年4月30日付のレポートで、Plug Power、NuScale Power、CF Industriesといった主要な水素関連企業を投資家が注目すべき銘柄として挙げました。これらの企業は、水素のバリューチェーンの様々な段階で事業を展開しており、それぞれの技術や市場戦略が評価されています。

### 主要な事業分野と銘柄の紹介

水素関連銘柄は、多岐にわたる事業分野に存在します。主なものとしては、再生可能エネルギーを利用して水素を生成するグリーン水素や、化石燃料から製造されるブルー水素の生産企業、水素生成に不可欠な電解槽のメーカー、水素と酸素から電気を生み出す燃料電池システムの開発企業が挙げられます。また、水素の安全な貯蔵技術、効率的な輸送・流通インフラを構築する企業も重要な位置を占めます。紹介された企業のうち、Plug Powerは、フォークリフトなどのマテリアルハンドリング機器向けのGenDriveシステムや、データセンターなどの定置型電源向けのGenSureシステムといった燃料電池ソリューションを開発しており、広範な産業アプリケーションに対応しています。

### 投資リスクと将来展望

水素関連銘柄への投資は、低炭素エネルギー分野の長期的な成長機会を提供する一方で、いくつかの固有のリスクも伴います。これらのリスクには、水素生産やインフラ構築に要する高額な初期設備投資、急速に進化する技術環境、各国政府や国際機関による規制政策の変更、そして市場全体のボラティリティが含まれます。水素エネルギー市場はまだ発展途上にあり、技術の成熟度や経済性、既存インフラとの統合性など、克服すべき課題も少なくありません。しかし、グローバルな脱炭素化目標達成に向けた各国のコミットメントが強まる中、水素産業は今後も継続的な成長が見込まれ、技術革新と政策支援がその成長をさらに加速させることが期待されます。



# ボッシュとフロイデンベルグ、燃料電池の大規模生産で提携

公開日 2026年04月29日 Automotive Logistics イギリス



## 概要

ボッシュとフロイデンベルグ・シーリング・テクノロジーは、燃料電池部品の大規模生産を加速するための戦略的提携を発表しました。この提携は、プロトン交換膜（PEM）燃料電池の中核部品である金属バイポーラプレートの製造能力拡大に重点を置いています。両社は、特に大型商用車における燃料電池システムの需要増に対応するため、生産プロセスの工業化を目指します。自動車製造と先進材料におけるそれぞれの専門知識を結集することで、燃料電池技術のコスト削減と効率向上を図り、水素駆動型輸送の普及を加速させることを目標としています。

### 背景：燃料電池の普及に向けた生産能力強化

脱炭素化の流れが加速する中、燃料電池技術は特に重い輸送機器や商用車分野において、将来のクリーンエネルギーソリューションとして大きな期待を集めています。しかし、燃料電池システム、特にその主要部品の製造コストと生産規模は、まだ広範な市場普及の障壁となっています。このような背景を受け、世界的な自動車部品サプライヤーであるボッシュと、シーリング技術の専門企業であるフロイデンベルグ・シーリング・テクノロジーは、燃料電池部品の大規模生産を加速するための戦略的提携を発表しました。

### 主要な協力内容：金属バイポーラプレートの工業化

この提携の中心は、プロトン交換膜（PEM）燃料電池の中核をなす部品である金属バイポーラプレートの製造能力拡大にあります。バイポーラプレートは、燃料電池スタック内で水素と酸素を分離し、反応生成物を排出する役割を担う重要な部品であり、その性能とコストが燃料電池システム全体の効率と経済性に大きく影響します。ボッシュとフロイデンベルグは、それぞれの自動車製造における豊富な経験と、先進的な材料技術・生産ノウハウを組み合わせることで、金属バイポーラプレートの生産プロセスを高度に工業化することを目指します。これにより、製造コストの削減、生産効率の向上、そして品質の安定化を図り、増大する市場需要に対応する体制を構築します。

### 影響と展望：水素駆動型輸送の加速と脱炭素化

この戦略的提携は、特に大型商用車（トラック、バスなど）における燃料電池システムの普及を加速させる上で極めて重要な意味を持ちます。これらの車両は、長距離輸送や高い稼働率が求められるため、バッテリー式EVよりも水素燃料電池が有利なケースが多く、脱炭素化の切り札として期待されています。両社の協力によって、燃料電池技術のコスト競争力と信頼性が向上すれば、水素駆動型輸送の導入が加速し、欧州全域における運輸部門の排出ガス削減目標達成に大きく貢献するでしょう。これは、クリーンなモビリティへの移行を促進し、より持続可能な社会の実現に向けた重要な一歩となることが期待されます。



# ドイツ、新たなパイプラインプロジェクトで水素インフラを強化

公開日 2026年04月26日 Clean Energy Wire ドイツ



## 概要

ドイツは、堅牢な国内水素インフラを確立するための新たな水素パイプラインプロジェクト計画を発表しました。この取り組みは、ドイツが水素ベース経済へと移行し、気候目標を達成するための広範な戦略の中核をなすものです。新しいパイプラインは、洋上風力発電容量が豊富な沿岸地域を含む生産拠点から、国内の産業中心地や消費拠点へグリーン水素を効率的に輸送します。政府は、この不可欠なインフラの開発と実装を加速するために、多額の資金提供と規制支援を行っています。

### 背景：ドイツの脱炭素戦略と水素の役割

ドイツは、欧州連合（EU）の主要経済国として、温室効果ガス排出量の削減と再生可能エネルギーへの移行に積極的に取り組んでいます。その脱炭素戦略において、水素エネルギーは特に、電化が困難な産業部門や長距離輸送における重要なクリーン燃料と位置付けられています。このような背景から、ドイツ政府は、水素ベース経済への移行を加速させ、野心的な気候変動目標を達成するために、堅牢な国内水素インフラの構築を喫緊の課題と捉えています。

### 主要な取り組み：パイプラインネットワークの拡張

ドイツ政府は、この目標達成に向けた具体的な施策として、複数の新たな水素パイプラインプロジェクトの計画を公表しました。これらのパイプラインは、主に洋上風力発電からの豊富な電力を利用して生産されるグリーン水素を、生産拠点から国内の主要な産業クラスターや大規模な消費地へと効率的に輸送することを目的としています。プロジェクトには、完全に新規の水素専用パイプラインの建設だけでなく、既存の天然ガスパイプラインを水素輸送用に転用する計画も含まれており、これによりインフラ整備のコストと時間を削減し、迅速な導入を目指します。この取り組みは、全国規模で水素供給網を確立し、広範囲にわたる産業分野での水素利用を促進する基盤となります。

### 影響と展望：経済効果とエネルギー安全保障

水素パイプラインネットワークの拡張は、ドイツ経済に多大な影響をもたらすと期待されています。まず、水素輸送の物流コストを大幅に削減し、水素の最終的な供給価格競争力を高めることができます。これにより、鉄鋼、化学、セメントといったエネルギー多消費型産業における水素導入が加速し、これらの産業の脱炭素化を強力に後押しします。さらに、国内での水素生産と供給網の確立は、エネルギー輸入依存度を低減し、国家のエネルギー安全保障を強化する上でも重要な意味を持ちます。ドイツ政府は、これらのインフラ整備に対して多額の資金援助と規制上の支援を提供しており、これにより水素経済の早期確立を目指します。将来的には、この国内ネットワークが欧州全体の水素バックボーンと連結され、広域での水素貿易と流通を可能にする可能性も秘めています。

収集日: 2026年05月02日 | 自動記事収集・翻訳システム (Gemini API使用)

# 中国、塩水空洞活用で大規模水素貯蔵技術に画期的進展

公開日 2026年04月30日 AFPBB News 日本



## 概要

中国科学院は、中国初の100万立方メートル級塩水空洞水素貯蔵施設を成功裏に開発し、水素エネルギー貯蔵技術において画期的なブレークスルーを達成したと発表しました。この成果は、クリーンエネルギーキャリアとしての水素の広範な導入に不可欠な、大規模かつ安全な水素貯蔵能力の確立に向けた重要な一歩となります。塩水空洞の利用は、地質学的な安定性とコスト効率の高さから、大量の水素を貯蔵する有望なソリューションです。この技術進展は、中国が強固な水素エネルギーインフラを構築し、脱炭素経済への移行を加速させるための大きな推進力となるでしょう。

### 背景：水素社会実現への鍵としての貯蔵技術

水素エネルギーは、脱炭素社会の実現に向けた重要なエネルギーキャリアとして世界中で注目されています。しかし、その普及を加速させるためには、大規模かつ安全、そして経済的な水素貯蔵技術の確立が不可欠です。特に、再生可能エネルギー由来の電力から水素を製造する（Power-to-Gas）場合、間欠的な電力供給と安定的な水素需要を調整するための大容量貯蔵が求められます。このような背景の中、中国は水素貯蔵技術の研究開発に国家的なリソースを投入し、目覚ましい進展を遂げています。

### 主要な進展：中国初の100万立方メートル級塩水空洞貯蔵

中国科学院は、同国初の100万立方メートル級塩水空洞水素貯蔵施設を成功裏に開発したと発表し、これは水素エネルギー貯蔵技術における画期的なブレークスルーとして評価されています。塩水空洞は、地下の安定した岩塩層を掘削して作られる人工的な空洞であり、高圧ガスを安全に貯蔵するための優れた特性を持っています。この技術は、その地質学的な安定性、大規模な貯蔵容量、そして比較的低い建設・運用コストから、大量の水素を効率的に貯蔵するための最も有望な方法の一つとされています。このプロジェクトは、既存の技術的課題を克服し、実践的な大規模水素貯蔵の実現可能性を示すものとなりました。影響と展望：中国の水素インフラ強化と世界的影響

今回の技術的成果は、中国が強固な水素エネルギーインフラを構築し、脱炭素経済への移行を加速させる上で非常に大きな意味を持ちます。大規模な貯蔵能力が確保されることで、水素の安定供給が可能となり、産業、交通、電力部門など、より広範な分野での水素利用が促進されるでしょう。また、中国がこの分野で先行することは、世界の水素貯蔵技術開発にも大きな影響を与える可能性があります。将来的には、このような大規模貯蔵技術が、再生可能エネルギーの導入拡大に伴う電力システムの安定化や、季節間のエネルギー需給調整に貢献し、グローバルなエネルギー転換をさらに加速させる触媒となることが期待されます。この技術は、水素サプライチェーン全体の最適化にも寄与し、水素のコスト競争力向上にも繋がるでしょう。

元記事: <https://www.afpbb.com/articles/amp/3633126>

# マレーシア・スランゴール州、公共バスへの水素エネルギー導入計画を発表

公開日 2026年04月28日 時事ドットコム 日本



## 概要

マレーシアのスランゴール州政府は、州営バスサービス「スマートスランゴール」に水素エネルギーを導入する計画を発表しました。ベルナマ通信によると、ウン・ジハン投資・貿易・モビリティ担当州議会議員は、今年中の実施を目指すと述べています。この取り組みは、州全体でクリーンエネルギーの利用を促進し、公共交通機関の脱炭素化を図るものです。水素エネルギー導入の実現可能性は、州営企業Worldwide Holdings Berhad (WHB) が管理する充電ステーションの整備に左右されるとされており、東南アジアにおける公共交通への水素燃料電池技術導入の新たな動向を示すものです。

### 背景：マレーシアの脱炭素化目標と公共交通の役割

マレーシアは、東南アジア地域における経済発展と環境保全の両立を目指し、脱炭素化の取り組みを強化しています。特に、都市部の公共交通機関は、温室効果ガス排出量の削減と大気汚染対策において重要な役割を担います。スランゴール州は、マレーシアの経済を牽引する主要な州の一つであり、その公共交通システム「スマートスランゴール」は、多くの市民の移動を支えています。このような背景のもと、スランゴール州政府は、より持続可能なエネルギー源を公共交通に導入する戦略的な計画を策定しました。

### 主要な計画：州営バスへの水素燃料電池導入

スランゴール州政府は、州営バスサービスに水素エネルギーを導入する計画を公表しました。マレーシアの国営通信社ベルナマの報道によると、投資・貿易・モビリティ担当のウン・ジハン州議会議員は、この画期的な取り組みを今年中に実施することを目指していると述べました。この計画は、公共交通機関における排出ガスゼロ化を目指すもので、水素燃料電池技術をバスに適用することで、運行中のCO2排出量をゼロに抑えることを目的としています。導入の鍵となるのは、州営企業であるWorldwide Holdings Berhad (WHB) が水素充電ステーションを整備し、水素供給インフラを確立できるかどうかにかかっています。このインフラ整備は、州の包括的なクリーンエネルギー計画の一環として進められます。

### 影響と展望：地域経済と環境への貢献

スランゴール州によるこの水素エネルギー導入計画は、マレーシアおよび東南アジア地域におけるグリーン交通の促進に大きな影響を与えるでしょう。公共交通機関における水素燃料電池技術の採用は、都市の大気質改善に直接的に貢献し、住民の健康増進にも繋がります。また、このプロジェクトは、水素エネルギー関連産業の発展を促し、新たな雇用創出や技術革新の機会を生み出す可能性も秘めています。長期的に見れば、水素エネルギーが公共交通の主流となることで、化石燃料への依存を減らし、エネルギーの持続可能性と安全保障を向上させることが期待されます。スランゴール州のこの取り組みは、東南アジア地域における他の都市や国々にも、公共交通の脱炭素化モデルとして大きな影響を与えるものと予測されます。

---

元記事: <https://www.jiji.com/jc/article?k=2026042800354&g=jnb>

収集日: 2026年05月02日 | 自動記事収集・翻訳システム (Gemini API使用)

# 水素製造用整流器の世界市場レポート：2026年～2032年 予測

公開日 2026年04月29日 NEWSCAST (配信元、レポート発行元不明) 日本

株式会社マーケットリサーチセンター

[www.MarketResearch.jp](http://www.MarketResearch.jp)

- 市場調査レポート/委託調査サービス

## 概要

本記事は、水素製造用整流器のグローバル市場に関する市場調査レポートの概要紹介です。発行元は不明ですが、NEWSCASTが配信したもので、2026年から2032年までの市場予測が対象です。レポートは、SCR整流器やスイッチモード整流器など、水素生成の効率に不可欠な様々な整流器の種類について詳述しています。市場の成長は、高効率なペロブスカイト型や、燃料電池車に適したPEM型電解などの電解技術の進展に牽引されると予測されています。

## 詳細

本記事はNEWSCASTが配信した市場調査レポートの概要紹介です。

### レポート概要

この市場調査レポートは、2026年から2032年までの期間における水素製造用整流器のグローバル市場に焦点を当てています。整流器は、電解槽を用いて水素を製造するプロセスにおいて、交流電流を直流電流に変換し、電解効率を最適化するために不可欠な電力変換装置です。レポートでは、SCR（シリコン制御整流器）整流器、スイッチモード整流器、その他複数の整流器タイプを対象とし、それぞれの技術的特性、市場におけるシェア、および将来の成長見通しについて詳細な分析を行っています。

### 主要な調査結果

レポートによると、水素製造用整流器市場は、水素エネルギー産業の拡大に伴い、予測期間中に堅調な成長が見込まれています。市場を牽引する主要な要因として、以下の点が挙げられています。

- **電解技術の進化:** 高効率なペロブスカイト型電解技術が持つ将来性や、迅速な応答特性を持ち燃料電池車への応用が期待されるPEM（プロトン交換膜）電解技術の普及が、高性能な整流器への需要を高めています。
- **燃料電池技術への応用:** 水素発生整流器は、燃料電池技術においてクリーンエネルギーを供給し、環境負荷を低減する上で極めて重要な役割を果たします。特に、大規模な水素製造プラントやモジュール型電解システムにおいて、安定した電力供給を確保する上で不可欠です。
- **研究開発の進展:** この分野では、より効率的で信頼性の高い水素生成方法を開発するための研究開発が活発に進められており、これが新たな応用分野の開拓と産業界での幅広い採用を促進すると予測されています。

### 発行会社について

このレポートの具体的な発行元は本文中には明記されていませんが、日本のプレスリリース配信サービスであるNEWSCASTを通じて情報が公開されました。NEWSCASTは、多岐にわたる産業分野のニュースや調査レポートを企業やメディアに提供しており、新技術や市場トレンドに関する情報発信プラットフォームとしての役割を担っています。

---

元記事: <https://newscast.jp/smart/news/5840271>

収集日: 2026年05月02日 | 自動記事収集・翻訳システム (Gemini API使用)

# U Power、タイのデータセンター向け水素エネルギー合併会社を設立

公開日 2026年04月27日 Investing.com 日本



## 概要

水素エネルギー分野で事業展開するU Powerは、タイのデータセンター向けに水素エネルギーソリューションを提供する合併会社を設立しました。これは、エネルギー集約型のデータセンターにクリーンエネルギー代替を導入する動きが加速していることを示します。今回の提携は、急速に拡大するデジタルインフラ分野における持続可能性へのコミットメントを強調するものです。Guofuheelは、2019年から2023年まで中国の水素充填ステーション設備市場で5年連続トップシェアを維持しており、この合併事業を通じてその専門知識が活用される可能性があります。

### 背景：データセンターの電力需要とクリーンエネルギーの必要性

デジタル化の進展に伴い、データセンターの数は世界的に急増しており、それに伴い電力消費量も膨大になっています。データセンターは24時間365日稼働する必要があり、安定した電力供給が不可欠ですが、そのエネルギー源の多くは依然として化石燃料に依存しており、温室効果ガス排出量の問題が深刻化しています。このような背景から、データセンターの持続可能性を高めるために、再生可能エネルギーや水素エネルギーといったクリーンな電力ソリューションへの関心が高まっています。

### 主要な発表：U Powerによるタイでの合併事業

水素エネルギー分野で積極的に事業を展開しているU Power社は、タイにおいてデータセンター向け水素エネルギーソリューションを提供する合併会社を設立したことを発表しました。この戦略的な動きは、エネルギー集約型産業であるデータセンターが、より環境に優しい電力供給源へと移行している現状を明確に示しています。今回のパートナーシップは、急速に拡大するデジタルインフラ分野において、持続可能性への強いコミットメントを具体的に示すものです。また、中国の水素充填ステーション設備市場で2019年から2023年まで5年連続でトップシェアを維持しているGuofuhee社のような主要な水素関連企業が、広範な水素エコシステムの中でその専門知識を活かしていることにも言及されており、この合併事業が高度な技術力と実績を背景に展開されることが示唆されます。

## 影響と展望：信頼性と環境負荷低減の両立

この合併会社の設立は、データセンター業界において水素エネルギーが提供する信頼性と環境負荷低減という二重のメリットを追求する重要な一歩となります。水素燃料電池は、停電時にも継続的な電力供給を可能にするバックアップ電源として機能し、データセンターの運用における高い可用性を確保できます。同時に、燃料電池の利用は、温室効果ガス排出量を大幅に削減し、企業のカーボンニュートラル目標達成に貢献します。タイというASEAN地域のデジタルハブにおいて、このような先進的な水素エネルギーソリューションが導入されることは、地域全体のデータセンター業界における脱炭素化を加速させるモデルケースとなるでしょう。将来的には、この取り組みが他のアジア諸国にも波及し、データセンターのエネルギー転換をさらに推進する原動力となることが期待されます。

元記事: <https://jp.investing.com/news/company-news/article-93CH-1506147>

収集日: 2026年05月02日 | 自動記事収集・翻訳システム (Gemini API使用)

# 高砂熱学工業、液化MCHを活用したグリーン水素供給網構築実証事業に参加

公開日 2026年04月30日 日刊建設工業新聞 日本



## 概要

高砂熱学工業は、液体のメチルシクロヘキサン（MCH）を用いたグリーン水素供給網構築実証事業に参加すると発表しました。このプロジェクトは、茨城県の施設で生成した水素を東京のレストランで利用するまでの一連のプロセスを実証するもので、特にMCHによる安全かつ効率的な水素の液化運搬に重点を置いています。MCHは、常温常圧で大量の水素を溶解できる液体水素キャリアであり、気体水素の約530倍の体積効率で運搬が可能です。この取り組みは、都市部における多用途な水素利用技術の開発を目指す東京都のプロジェクトの一環であり、日本の水素戦略における水素キャリアの重要性を示しています。

### 背景：水素運搬の課題と液体水素キャリアの可能性

水素エネルギーの普及には、その安全かつ効率的な運搬方法の確立が大きな課題となっています。特に、水素は気体の場合、体積あたりのエネルギー密度が低いため、大量輸送には高圧化や液化が必要となり、これには多大なコストと技術的制約が伴います。こうした課題を解決する手段の一つとして、液体有機ヒドライド（LOHC）の一種であるメチルシクロヘキサン（MCH）などの水素キャリア技術が注目されています。MCHは、常温常圧で安全に水素を貯蔵・輸送できる特性を持ち、輸送効率を大幅に向上させることが期待されています。

### 主要な取り組み：高砂熱学工業のMCH実証プロジェクト

高砂熱学工業は、このMCHを活用したグリーン水素供給網構築の実証事業に参画することを発表しました。このプロジェクトは、グリーン水素の「製造」から「運搬」、「利用」までの一連のサプライチェーン全体を実証することを目的としています。具体的には、同社が茨城県に持つ施設で生成されたグリーン水素をトルエンに水素化反応させることでMCHを生成し、これを液体の状態で輸送します。その後、東京都内のレストランに設置されるコンパクトな水素供給システムでMCHから水素を取り出し、これを燃料として利用するというものです。この取り組みは、2024年に東京都が採択した「都市部における多用途水素利用技術の開発・実証プロジェクト」の一環であり、都市空間での水素利用の可能性を広げるものです。

## 影響と展望：都市部での水素利用促進と日本の水素戦略

MCHを用いた水素供給網の実証は、特に高密度な都市部において、これまで課題とされてきた水素の貯蔵・運搬の問題を解決し、水素利用の促進に大きく貢献するものです。MCHは、気体水素と比較して約530倍もの体積効率で水素を運搬できるため、既存の石油流通インフラを一部活用できる可能性も秘めています。これは、新たなインフラ投資を抑えつつ、水素供給網を効率的に構築するための鍵となります。日本政府は、水素戦略において、液化水素やアンモニア、MCHなどの多様な水素キャリアの開発と普及を重要な柱として位置付けており、今回の高砂熱学工業の取り組みは、その実現に向けた具体的な一歩となります。将来的には、このような技術が、様々な産業や地域でクリーンな水素エネルギーを供給するための基盤となり、日本全体の脱炭素化目標達成に貢献することが期待されます。

元記事: <https://www.decn.co.jp/?p=183866>

収集日: 2026年05月02日 | 自動記事収集・翻訳システム (Gemini API使用)

# グリーン水素：脱炭素社会とエネルギー自給の未来を拓く切り札

公開日 2026年04月28日 DENZAI-ZeuS 日本



## 概要

本記事は、再生可能エネルギー由来のグリーン水素が、脱炭素社会実現のための決定的なエネルギー源となる可能性について論じています。グリーン水素は、CO<sub>2</sub>排出なしに製造され、電力化が困難な鉄鋼業や重輸送部門の脱炭素化を可能にします。安価なグリーン電力の普及により、以前は高コストだったグリーン水素の実用化が現実味を帯びてきました。また、グリーン水素はバッテリーの限界を超える長期・大規模なエネルギー貯蔵ソリューションを提供し、化石燃料輸入国にとってはエネルギー自給率向上にも貢献すると述べています。

### 背景：脱炭素化とエネルギー転換の必要性

地球温暖化対策の喫緊の課題として、世界中で脱炭素社会への移行が加速しています。この中で、再生可能エネルギーの導入は進むものの、その間欠性や貯蔵の問題、そして電化が困難な産業部門（例：鉄鋼、化学）の脱炭素化が大きな課題として残されています。このような状況において、再生可能エネルギー由来の「グリーン水素」は、CO2排出を伴わずに製造されるクリーンなエネルギーキャリアとして、これらの課題を解決し、未来のエネルギーシステムを根本から変革する「切り札」として注目を集めています。

### 主要な特性とメリット：脱炭素化とエネルギー貯蔵

グリーン水素は、以下の主要な特性とメリットにより、脱炭素社会の実現に不可欠な存在となっています。

- **CO2排出ゼロの製造:** 再生可能エネルギーのみを利用して製造されるため、生産過程でCO2を排出せず、真のクリーンエネルギーとして機能します。
- **「電化が困難な分野」の脱炭素化:** 鉄鋼製造における水素還元製鉄や、長距離輸送、重工業プロセスにおける燃料転換など、直接的な電化が難しい分野の脱炭素化を可能にします。
- **経済性の向上:** 世界的に安価なグリーン電力の供給が拡大したことで、以前は高コストだったグリーン水素の製造コストが低下し、実用化に向けた経済的障壁が大きく低減しました。
- **大規模・長期エネルギー貯蔵:** 蓄電池では難しい大規模かつ長期的なエネルギー貯蔵ソリューションを提供できます。水素は、ガスや液体、あるいはアンモニアなどのキャリアに変換することで、季節間のエネルギー需給調整や、遠隔地へのエネルギー輸送が可能になります。

## 影響と展望：経済構造の変革とエネルギー自給

グリーン水素の普及は、単にエネルギー源が変化するだけでなく、社会全体の経済構造や産業構造に劇的な変革をもたらす可能性を秘めています。特に化石燃料の輸入に大きく依存している国々にとっては、国内で生産されるグリーン水素が、エネルギー自給率を大幅に向上させ、エネルギー安全保障を強化する重要な手段となります。これにより、エネルギー供給のリスクが低減され、地政学的要因による影響を受けにくい、より安定したエネルギーシステムが構築されます。グリーン水素の技術革新とインフラ整備が加速することで、新たな産業が生まれ、雇用が創出され、持続可能でレジリエントな社会の実現に向けた大きな原動力となることが期待されます。

元記事: <https://denzai-zeus.com/ogawa-news/guri-nsuiso>

収集日: 2026年05月02日 | 自動記事収集・翻訳システム (Gemini API使用)

# 変動性再生可能エネルギー拡大時代の電力貯蔵システム（ESS）：PwCレポート

公開日 2026年04月28日 PwC 日本



## 概要

PwCのレポート「変動性再生可能エネルギー拡大時代の電力貯蔵システム（ESS）前編」は、変動性の高い再生可能エネルギー源が拡大する時代における電力貯蔵システム（ESS）の重要性を論じています。特に、電力を水素に変換する「Power to H2」技術は、大容量かつ季節を跨ぐ長期貯蔵に適しており、発電地から遠隔地の需要地へ余剰電力を輸送・貯蔵する手段として注目されます。国際エネルギー機関（IEA）は、再生可能エネルギーの割合が増加する中で、水素貯蔵を含む長期エネルギー貯蔵が不可欠であると強調しています。

### 背景：再生可能エネルギー普及の課題と貯蔵システムの重要性

太陽光発電や風力発電といった変動性の高い再生可能エネルギー（VRE）の導入が世界的に拡大する中で、電力システムの安定化と効率的なエネルギー利用が喫緊の課題となっています。VREは気象条件によって発電量が変動するため、電力供給の不安定性を引き起こし、需給バランスの維持を困難にします。この課題を解決するために、エネルギー貯蔵システム（ESS）が重要な役割を担います。特に、大規模かつ長期間の貯蔵を可能にする技術が、VREのポテンシャルを最大限に引き出す上で不可欠とされています。

### 主要な技術：Power to H2と長期貯蔵の可能性

PwCのレポート「変動性再生可能エネルギー時代の電力貯蔵システム（ESS）前編」では、ESSの中でも特に、余剰電力を水素に変換して貯蔵する「Power to H2（パワー・トゥ・エイチツー）」技術が注目されています。この技術は、電解によって水を分解し水素を生成することで、電気エネルギーを化学エネルギーとして貯蔵します。水素は、体積を大きく圧縮したり液化したり、あるいはアンモニアやMCHなどの水素キャリアに変換したりすることで、大容量かつ長期間の貯蔵が可能です。これにより、再生可能エネルギー発電所から遠く離れた需要地へ、季節を跨いで余剰電力を効率的に輸送・貯蔵することが可能となります。国際エネルギー機関（IEA）も、再生可能エネルギーの比率が高まる中、熱貯蔵や水素貯蔵を含む長期エネルギー貯蔵が、週単位から季節単位の需給変動に対応するために不可欠であると強調しています。影響と展望：日本における普及と多角的なエネルギーミックス

現状、日本においては、水素貯蔵を利用した地域熱供給ネットワークの導入事例は限定的ですが、その潜在能力は非常に高いと評価されています。水素をエネルギーキャリアとして利用することで、電力システムのピークカット、再生可能エネルギーの最大限の導入、そして多様なエネルギー源を組み合わせる「エネルギーミックス」の実現に貢献できます。特に、エネルギー需要の大きい都市部において、水素貯蔵は電力システムの安定化と脱炭素化を両立させる有効な選択肢となり得ます。今後は、技術の成熟、コスト競争力の向上、そして適切な政策支援を通じて、日本におけるPower to H2および水素貯蔵システムの普及が加速し、より持続可能で強靱なエネルギーインフラの構築に貢献していくことが期待されます。これにより、再生可能エネルギーの導入障壁が低減され、クリーンエネルギーへの移行がさらに促進されるでしょう。

---

元記事: <https://www.pwc.com/jp/ja/knowledge/column/energy-storage-system.html>

収集日: 2026年05月02日 | 自動記事収集・翻訳システム (Gemini API使用)

# 三菱商事、「カーボンニュートラル社会へのロードマップ2.0」を発表

公開日 2026年05月01日 三菱商事 日本



## 概要

三菱商事は、カーボンニュートラル社会の実現に向けた更新戦略「ロードマップ2.0」を発表しました。2021年の初版ロードマップ以降、同社はエネルギー・金属資源の安定供給を確保しつつ、電源脱炭素化と次世代エネルギー事業の加速に注力してきました。ロードマップには、次世代地熱や核融合発電技術を開発する先進企業への投資が盛り込まれています。また、同社は水素還元製鉄技術の実証プロジェクトに積極的に参加し、技術的知見を蓄積。2026年6月には、キリンビール北海道千歳工場で、一部の蒸気ボイラー燃料を化石燃料由来からグリーン水素由来に転換する実証も開始します。

### 背景：カーボンニュートラル社会への国際的要請と企業の役割

気候変動問題への対応は、企業にとって喫緊の経営課題であり、カーボンニュートラル社会の実現に向けた取り組みは、企業の持続的成長の基盤となっています。世界的な脱炭素化の動きが加速する中、商社は、そのグローバルなネットワークと多様な事業ポートフォリオを活かし、エネルギー転換、産業構造改革、新技術開発といった多岐にわたる分野で重要な役割を果たすことが期待されています。このような背景のもと、三菱商事は、カーボンニュートラル社会への貢献を目指し、その戦略を具体化した「ロードマップ」を定期的に更新しています。

### 主要な戦略と進捗：次世代エネルギーへの投資と実証

三菱商事が今回発表した「カーボンニュートラル社会へのロードマップ2.0」は、2021年に公開された初版ロードマップからの進捗と、今後の更新された戦略を詳細に示しています。同社は、引き続きエネルギーおよび金属資源の安定供給という経済安全保障上の要請に応えつつ、同時に電源の脱炭素化と次世代エネルギー事業の加速に重点を置いています。具体的な取り組みとしては、次世代地熱発電や核融合発電といった革新的な技術を開発する先進企業への積極的な投資が挙げられます。さらに、同社は、鉄鋼業の脱炭素化に不可欠とされる水素還元製鉄技術の実証プロジェクトにも参画し、その技術的知見を蓄積し、社会実装に向けた支援を行っています。特筆すべきは、2026年6月から麒麟ビール北海道千歳工場で開始される実証プロジェクトです。ここでは、ビール製造プロセスで使用される蒸気ボイラーの一部燃料を、従来の化石燃料由来からグリーン水素由来に転換する試みがなされ、産業分野におけるグリーン水素の具体的な応用事例として注目されます。

## 影響と展望：産業の脱炭素化と持続可能な社会への貢献

三菱商事の「ロードマップ2.0」は、同社が多角的なアプローチでカーボンニュートラル社会の実現に貢献しようとする強い意志を示しています。次世代エネルギー技術への投資や、水素還元製鉄、産業用グリーン水素利用といった実証プロジェクトへの積極的な関与は、産業界全体の脱炭素化を加速させる上で非常に重要です。特に、製造業における熱源の脱炭素化は、これまで困難とされてきた課題であり、グリーン水素の適用は画期的な解決策となります。このような取り組みは、サプライチェーン全体での排出量削減を促し、より持続可能でレジリエントな社会の構築に寄与します。三菱商事のグローバルな事業展開と多様なパートナーシップは、新たなビジネスモデルの創出と、持続可能な未来への移行を強力に推進していくことが期待されます。

元記事: [https://www.mitsubishicorp.com/jp/ja/carbon-neutral/pdf/roadmap\\_20260501ja.pdf](https://www.mitsubishicorp.com/jp/ja/carbon-neutral/pdf/roadmap_20260501ja.pdf)

収集日: 2026年05月02日 | 自動記事収集・翻訳システム (Gemini API使用)

# サウジアラビアの化学液体水素市場レポート：価格、規模、予測、企業動向

公開日 2026年05月01日 IndexBox アメリカ

 INDEXBOX

## Saudi Arabia Chemical Liquid Hydrogen - Market Analysis, Forecast, Size, Trends and Insights



### 概要

本記事は、サウジアラビアにおける化学液体水素市場に関するIndexBox発行の市場調査レポートの概要紹介です。このレポートは、市場の価格動向、規模、将来予測について詳細な洞察を提供します。サウジアラビアは、IPHEの方法論に沿った国家水素認証制度の開発を進めており、これは輸出市場やグリーン水素プレミアムの獲得に不可欠です。また、サウジ標準化・度量衡・品質機構（SASO）は、液体水素（LH2）の貯蔵、輸送、取扱いに関する国家標準をISO基準に基づき策定中で、2028年から段階的に導入される予定です。

## 詳細

本記事はIndexBoxが発行した市場調査レポートの概要紹介です。

### レポート概要

IndexBoxによるこのレポートは、サウジアラビアの化学液体水素市場に特化し、価格、市場規模、予測、主要企業に関する詳細な洞察を提供しています。サウジアラビアは、その豊富なエネルギー資源と大規模な投資能力を背景に、世界の主要な水素生産・輸出国となることを目指しており、特に液体水素（LH2）はその効率的な輸送形態として注目されています。このレポートは、サウジアラビアが水素経済においてどのように戦略を進めているかを包括的に分析しています。

### 主要な調査結果

レポートの主要な調査結果は以下の通りです。

- **国家水素認証制度の確立:** サウジアラビアは、国際水素・燃料電池経済パートナーシップ（IPHE）の方法論に準拠した国家水素認証制度の開発を進めています。この認証は、水素のライフサイクル全体における炭素強度を評価するもので、国際的な水素貿易においてグリーン水素としてのプレミアムを獲得し、輸出市場での競争力を確保するために極めて重要です。
- **LH2に関する国家標準の策定:** サウジ標準化・度量衡・品質機構（SASO）は、液体水素（LH2）の貯蔵、輸送、取扱に関する国家標準を積極的に策定中です。これは、ISO 19880（気体水素）およびISO 13985（液体水素）といった国際標準を基盤としており、タンク設計、ベントシステム、漏洩検知、緊急対応プロトコルなどを網羅します。これらの標準は2028年から段階的に導入され、2035年までに完全な準拠が義務付けられる予定です。
- **港湾規制の更新:** サウジ港湾局（Mawani）も、LH2およびアンモニアのバンカリング（燃料補給）に対応できるよう港湾規制を更新しています。これは、海上輸送における水素燃料の利用拡大を見据えたもので、グローバルな水素サプライチェーンにおけるサウジアラビアのハブとしての役割を強化します。
- **バリューチェーンの創出:** レポートは、サウジアラビアの水素セクターにおけるバリュー創出のプロセスを強調しています。これには、化学生産、液化、バルク貯蔵、ターミナル物流、そして「生産-貯蔵-利用」が統合されたシステム構築が含まれます。

## 発行会社について

IndexBoxは、世界中の多岐にわたる産業分野の市場調査レポートやビジネスインテリジェンスを提供するグローバルな市場調査会社です。同社は、詳細なデータ分析と市場予測を通じて、企業や政府機関が戦略的な意思決定を行うための包括的な情報と洞察を提供しています。特に、商品市場、エネルギー市場、および先進技術市場に関する深い専門知識を有しています。

元記事: <https://www.indexbox.io/store/saudi-arabia-chemical-liquid-hydrogen-market-analysis-forecast-size-trends-and-insights/>

収集日: 2026年05月02日 | 自動記事収集・翻訳システム (Gemini API使用)

# Plug Power株が9.9%急騰、強気のアナリスト評価と水素セクターの勢いが追い風

公開日 2026年04月29日 Quiver Quantitative アメリカ



## 概要

Plug Power Inc.の株価が9.9%の急騰を見せ、その背景には、同社の流動性改善とコスト管理への取り組みを評価する強気のアナリストレポートがありました。この上昇は、水素およびクリーンエネルギーセクター全体におけるポジティブなセンチメントにも支えられました。アナリストレポートは、Plug Powerが継続的に受注を獲得していることを強調し、最近の商業的な進展を受けて株価の再評価を促すものとなりました。また、5月11日に予定されている2026年第1四半期決算発表日も、投資家の注目を集める短期的なカタリストとなりました。

### 背景：水素エネルギー産業の市場評価と投資家の関心

水素エネルギー産業は、世界の脱炭素化目標達成に向けた重要な役割が期待されており、関連企業の株式は投資家の間で高い関心を集めています。特に、燃料電池技術や水素インフラ開発に特化した企業は、その成長性と将来性から市場の注目を浴びやすい傾向にあります。しかし、新興技術市場特有のボラティリティも存在し、株価は市場のセンチメントや企業の業績発表、アナリスト評価に大きく左右されます。このような状況下で、Plug Power Inc.の株価が短期間に大幅な上昇を見せました。

### 主要な要因：アナリストの強気評価とセクター全体の追い風

Plug Powerの株価は、2026年4月29日に9.9%という顕著な上昇を記録しました。この急騰の主な要因は複数あります。まず、あるアナリストが同社に対して「強気」の評価を維持し、流動性の改善とコスト管理への継続的な取り組みを具体的に指摘したことが挙げられます。アナリストレポートでは、Plug Powerが「受注獲得の勢い」を維持している点も強調され、これが最近の商業的な進展と合わせて、株価のポジティブな再評価に繋がりました。さらに、水素およびより広範なクリーンエネルギーセクター全体が好調な動きを見せていたことも、Plug Powerの株価を押し上げる追い風となりました。同業の燃料電池/電力分野の企業が楽観的なコメントとガイダンスを提供したことで、グループ全体のセンチメントが一段と向上しました。

### 影響と展望：今後の決算発表と市場の期待

今回の株価上昇は、Plug Powerに対する市場の信頼が短期的に高まっていることを示唆しています。投資家は、5月11日に予定されている2026年第1四半期決算発表を特に注目しており、この発表で同社の財務状況、特に収益性向上とキャッシュバーン削減に関する具体的な進捗が示されることが期待されています。水素エネルギー産業は、大規模な投資と長期的な技術開発が必要な分野であり、個々の企業の業績は市場全体の成長トレンドと密接に連動しています。Plug Powerのような主要プレイヤーの動向は、セクター全体の健全性を測る上で重要な指標となります。今後の技術革新と政策支援が、水素経済の本格的な拡大を後押しし、関連企業の持続的な成長に貢献するでしょう。

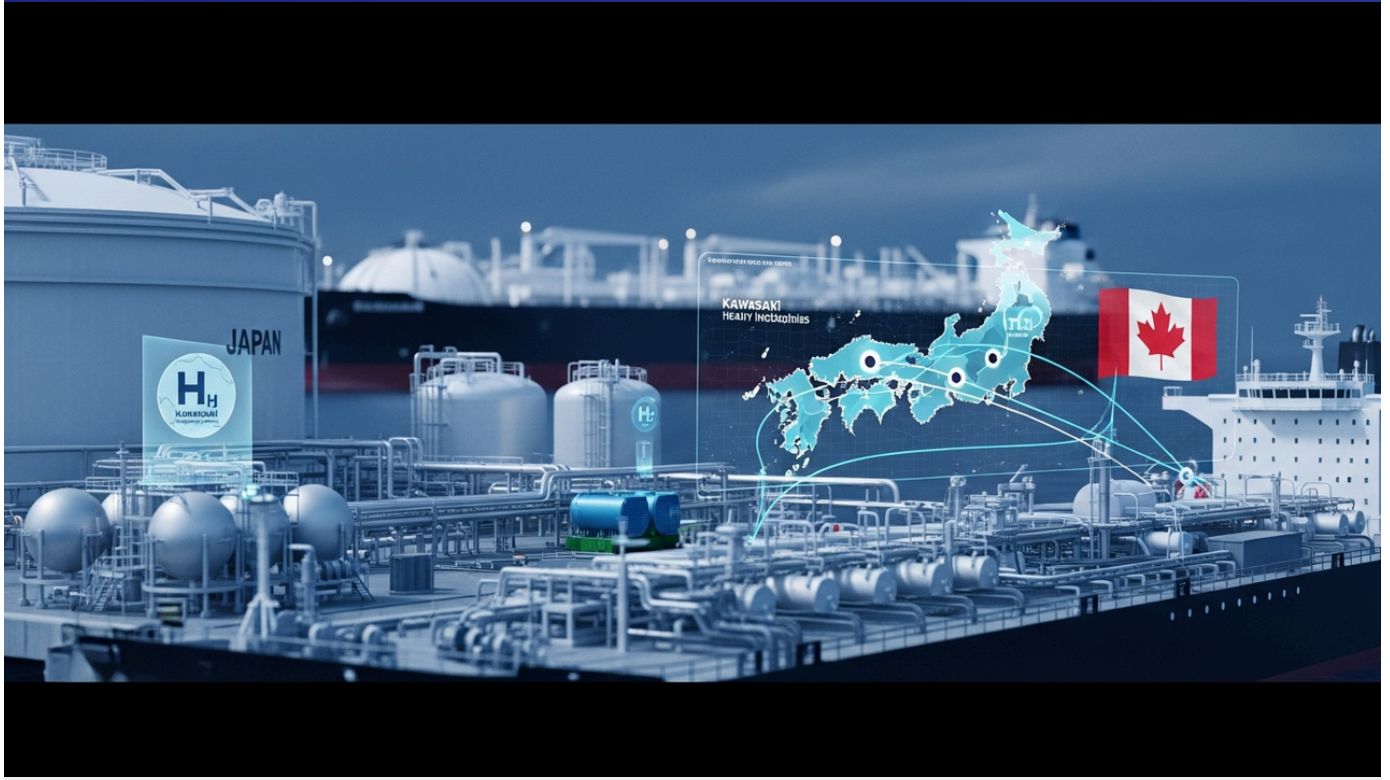
元記事:

<https://www.quiverquant.com/news/Plug+Power+jumps+9.9%25+as+bullish+analyst+note+and+hydrogen->

収集日: 2026年05月02日 | 自動記事収集・翻訳システム (Gemini API使用)

# 川崎重工業、カナダとの連携で液化水素供給網構築の可能性を探る

公開日 2026年04月27日 海事プレス 日本



## 概要

川崎重工業は4月22日、カナダのアルバータ州エドモントン地域の水素ハブ（ERHH）、アルバータ産業ハートランド協会（AIHA）、エドモントン・グローバルと覚書（MOU）を締結しました。この連携は、液化水素供給網の構築実現可能性を共同で探ることを目的としています。今回の発表は、カナダで開催された国際見本市「Canadian Hydrogen Con...」の直後に行われました。この提携は、川崎重工業がグローバルな水素経済におけるプレゼンスを拡大し、国際的な水素輸送ネットワークの発展に貢献する戦略的な動きを示しています。

### 背景：グローバルな水素サプライチェーン構築の必要性

脱炭素化の動きが世界的に加速する中、水素エネルギーは主要なクリーンエネルギーキャリアとして期待されており、その普及には国際的なサプライチェーンの構築が不可欠です。特に、水素は輸送・貯蔵が容易ではないため、効率的かつ安全な液化水素の輸送技術やインフラの確立が重要な課題となっています。こうした背景のもと、各国の政府や企業は、水素供給網の構築に向けた国際連携を模索しており、技術力を持つ企業がその中心的な役割を担っています。

### 主要な連携内容：川崎重工業とカナダのMOU締結

日本の重工業大手である川崎重工業は、2026年4月22日に、カナダのアルバータ州にあるエドモントン地域水素ハブ（ERHH）、アルバータ産業ハートランド協会（AIHA）、およびエドモントン・グローバルとの間で、液化水素供給網の構築に向けた実現可能性調査に関する覚書（MOU）を締結したことを発表しました。この連携は、カナダのエドモントンで開催された国際見本市「Canadian Hydrogen Convention」の直後に行われ、カナダが持つ豊富な天然資源と、川崎重工業が長年培ってきた液化水素輸送・貯蔵技術とのシナジーが期待されます。MOUの目的は、液化水素を効率的に製造、輸送、そして貯蔵するための包括的なサプライチェーンを確立し、その実現可能性を多角的に評価することにあります。

### 影響と展望：国際水素経済への貢献と技術的優位性

この国際的なパートナーシップは、川崎重工業がグローバルな水素経済におけるプレゼンスをさらに強化し、世界の水素輸送ネットワークの発展に貢献する上で非常に重要な意味を持ちます。同社は、液化水素運搬船「すいそ ふろんていあ」の開発・運航実績を持つなど、液化水素技術において世界をリードする立場にあります。カナダは、クリーンな水素生産に適した豊富な天然ガス資源や再生可能エネルギー源を有しており、液化水素の生産・輸出拠点としての潜在能力が高いとされています。この連携により、カナダからアジア市場などへの液化水素の安定供給が可能となれば、グローバルなエネルギー転換を加速させ、各国の脱炭素目標達成に大きく貢献するでしょう。将来的には、このプロジェクトが、液化水素サプライチェーンの国際標準化や技術革新を促進するモデルケースとなることも期待されます。

---

元記事: <https://www.kaijipress.com/news/shipping/2026/04/201124/>

収集日: 2026年05月02日 | 自動記事収集・翻訳システム (Gemini API使用)

# メキシコにおける水素タンク複合材ラッパー用接着剤市場 レポート：価格、規模、予測、企業動向

公開日 2026年05月01日 IndexBox アメリカ

 INDEXBOX

## Mexico Adhesives For Hydrogen Tank Composite Wraps - Market Analysis, Forecast, Size, Trends and Insights



### 概要

本記事は、メキシコの水素タンク複合材ラッパー用接着剤市場に関するIndexBox発行の市場調査レポートの概要紹介です。このレポートは、FCEVおよび水素インフラ製造のニアショアリングに牽引され、メキシコが接着剤の輸入依存型の新興市場であることを示しています。2026年に300万～600万ドルと評価される市場は、2035年までに年平均成長率（CAGR）22～28%で成長し、2500万～4500万ドルに達すると予測されています。エポキシ系構造用接着剤が2026年の需要量の約55～65%を占め、ISO 19881認証要件に適合する優れた機械的強度を持つことが指摘されています。

## 詳細

本記事はIndexBoxが発行した市場調査レポートの概要紹介です。

### レポート概要

IndexBoxによるこのレポートは、メキシコ市場における水素タンク複合材ラッパー用接着剤に特化して分析しています。水素貯蔵タンク、特に高圧のType IV複合材タンクは、燃料電池電気自動車（FCEV）や水素インフラにおいて、安全かつ効率的な水素貯蔵を可能にする重要なコンポーネントです。これらのタンクの製造には、複合材の層を結合するための高性能な接着剤が不可欠であり、その市場動向は水素エネルギー産業の発展に直結しています。レポートは、メキシコ市場の現状、成長予測、主要な接着剤タイプ、および技術的要件について包括的な情報を提供しています。

### 主要な調査結果

レポートの主要な調査結果は以下の通りです。

- **市場特性:** メキシコは、水素タンク複合材ラッパー用接着剤において新興市場であり、主に輸入に依存しています。この市場の成長は、燃料電池電気自動車（FCEV）および水素インフラ製造のニアショアリング（生産拠点の近隣国への移転）によって強かに牽引されています。
- **市場規模と成長予測:** 2026年の市場規模は300万～600万米ドルと評価されており、2035年までの期間において年平均成長率（CAGR）22～28%という高い成長が予測されています。これにより、市場規模は2,500万～4,500万米ドルに達する可能性があります。
- **主要な接着剤タイプ:** エポキシ系構造用接着剤が市場を支配しており、2026年の需要量全体の約55～65%を占めています。これは、エポキシ系接着剤が持つ優れた機械的強度と、ISO 19881などの高圧複合材タンク認証要件への適合性によるものです。
- **主要な応用セグメント:** 接着剤の総消費量の45～55%は、ライナーと複合材の構造接着（liner-to-composite structural bonding）に集中しています。これは、タンクメーカーが高圧（700バール）Type IV水素貯蔵容器の接着ラインの完全性を最優先しているためです。

## 発行会社について

IndexBoxは、世界中の多岐にわたる産業分野の市場調査レポートとビジネスインテリジェンスを提供するグローバルな市場調査会社です。同社は、詳細なデータ分析と市場予測を通じて、企業や政府機関が戦略的な意思決定を行うための包括的な情報と洞察を提供しています。特に、商品市場、エネルギー市場、および先進材料市場に関する深い専門知識を有しており、メキシコなどの新興市場にも強みを持っています。

元記事: <https://www.indexbox.io/store/mexico-adhesives-for-hydrogen-tank-composite-wraps-market-analysis-forecast-size-trends-and-insights/>

収集日: 2026年05月02日 | 自動記事収集・翻訳システム (Gemini API使用)